

SUPREME AND BRIGHT FUTURE.

RG Lighting System**シングルタイプ****HIDシステム取付要領書**

HALOGEN ⇄ HID CONVERSION KIT

※輸入車に取付けの際は、必ず適合表を確認してください。

※純正ヘッドライト・フォグライト以外(社外ヘッドライト、社外フォグライト)に取付けた場合、灯具が熱により変形する恐れがあります。

純正ヘッドライト・フォグライト以外の取付けについては、適合外のため保証対象外になります。ご了承の程、宜しくお願い致します。

※車検対応のH.I.Dシステムを装着した場合、配光、色の問題により車検に通らない場合があります。その際は、ノーマルバルブに交換し、車検を行ってください。

ご注意

この度は、H.I.Dシステムをお買い上げいただきましてありがとうございます。
正しく、安全にお使いいただくため、ご使用前には、本「取付要領書」をよくお読みください。また、本製品をご使用いただく間、必ずお手元に置いてご活用ください。



本製品の取付け、配線には専門の技術と経験が必要です。
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

装着前に、必ずご確認ください。

- 1)本製品はエンジン始動時にオートライトモード(オートライトスイッチON)になっていると、HIDが点灯しない場合があります。これは始動時の車輛側電力供給の低下などの要因が関係します。不点灯になった場合、一旦、スイッチをOFFにして再度ONにするとHIDは点灯します。※エンジンを止める際にオートライトモードを解除しておく事をお勧めします。
- 2)軽自動車、小型車にHIDキット装着の際は、バッテリーの容量アップをお勧めします。
軽自動車など最近の小型車両は必要最低限の電力供給ができるバッテリーが標準搭載されています。
後付HIDキットなど起動初期に大電力を必要とする電装パーツを装着すると、供給電力が足りず、点灯不良や点滅などの症状が発生する事があります。
※上記症状がエンジン始動直後や常時発生する場合は、装着状態(取付)を確認の上、バッテリー部のチェックをお願いします。
- 3)アイドリングストップ機能装着車への装着についてアイドリングストップ機能が付いたお車へHIDキットを装着される場合は、バッテリー電源線をサブバッテリーではなく、確実に電力の取れるメインバッテリーへの装着をお願いします。
※一部のマツダ車(i-stop)などはエンジンルームにバッテリーが2ヶ搭載されています。
アイドリングストップ状態からエンジン始動の際、一瞬、配光にチラツキが起きる場合があります。この様な車両へ装着の場合、付属品のRG VR4コントロールハーネスCをご使用ください。

※本製品は、汎用品として発売しておりますが、取付に関しては車種別適合表をご確認の上、作業してください。
適合の取れていない車種や部位に装着を頂いた場合は、保証の対象外となります。予めご了承ください。

仕 様**【H.I.D バルブ】**

- タイプ : H1・H3・HB3/4・H7・H9/11
 - 消費電力 : 35w
- ※定格入力確保できない車両への取付けは行わないでください。

【バラスト】

- 定格入力電圧 : DC 12v
- 定格出力電圧、電流 : 85v、35w

TMY CORPORATION

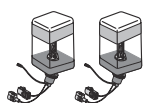
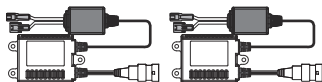
自動車用品部

TEL 03-3696-0620

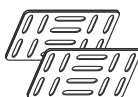
作業を行う前には、必ず車両の電源コネクターの検電を行ってから作業を始めてください。

構成部品**○基本セット部品**

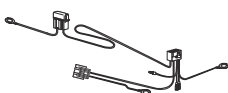
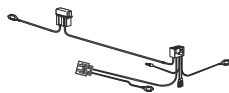
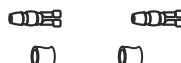
①バルブ 2個

②RG VR4
バラスト 2個
(RGH-CB928)

③バラストステー 2個



④イグナイタステー 2個

⑤RG VR4
リレーハーネスL 1個
(RGH-CB905)⑥RG VR4
リレーハーネスR 1個
(RGH-CB906)⑦RG VR4コントロール
ハーネスC 2個
(RGH-CB904)⑧リレー 2個
(RGH-CP001)⑨インシュロック
大4個/小4個⑩スペアヒューズ
(15A) 1個**○HB付属品**⑪HB用スペーサー
(ステン) 2個**○HB, H9/11付属品**⑫ギボシオス端子
スリーブ 各2個

▲ 安全上のご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

- 1** このH.I.Dシステムは高電圧(約2万ボルト)を発生しますので取扱い(取付け)には充分ご注意ください。
取付作業を行う前に、商品(バラスト・H.I.Dバルブ)の状態を点検してください。
※商品(バラスト・H.I.Dバルブ)に損傷がある場合や商品を落下させた場合は直ちに作業を中止してください。
- 2** ヘッドライト点灯中や消灯直後は、手や肌などで触れたり、洗車など直接水をかけないでください。
レンズやランプボディーが熱いのでヤケドや温度差によるレンズ割れの原因となります。
※洗車やヘッドライト付近に触れる場合は、充分に冷却した後、作業をおこなってください。
- 3** ヘッドライトの光軸が適正位置であるかを必ずご確認ください。
このシステムは通常のハロゲンバルブより明るさが増すため、光軸が合っていないかったり、故意に光軸を上に向けたりすると事故を誘発する恐れがあります。
- 4** 目が痛くなったり、視力障害の原因となります。
点灯中の光を間近で見つめないでください。
- 5** 感電の恐れがありますので、バルブを接続しない状態で電源を入れないでください。
H.I.Dバルブをバラストへ接続しない状態で、ヘッドライトスイッチをオンにすると接続端子部に高電圧が発生し、感電する恐れがあります。
また、この状態でヘッドライトスイッチをオフにしても高電圧が残留し、感電する恐れがあります。

使用上のご注意

- 1** 停車中(信号待ちなど)の点灯/消灯は頻繁に行わないでください。
点灯/消灯をくり返すことによりバルブ内部の電極が磨耗し短寿命や不点灯など、システムがトラブルを起す原因となります。
注) ヘッドライトスイッチの点灯/消灯を短い間隔でくり返すと点灯しなくなる場合があります。
これは、バラストの安全装置が作動して起こるもので故障ではありません。
この症状がでた場合、数秒間隔を置いてから再点灯を行ってください。(バラスト内の残留電気が抜けるまで起動しません。)
- 2** 下記症状は使用環境や状況によって発生するもので製品不良によるものではありません。
この症状はバラストの昇圧差やバラストの個体差による症状でクレームの対象外となりますので、ご理解の上ご使用ください。
1) 点灯直後や再点灯時に約10～20秒間、赤味を帯びた色や青白い色など、通常の点灯色にならないことがあります。
2) 左右のヘッドライトが同時に点灯しないことがあります。
3) 点灯時左右の照射光が異なる場合がありますが、これは商品の個体差によるものでクレームの対象外ですので、ご理解の上ご使用ください。約100時間ほどご使用していただくとバルブの色が安定してきます。
- 3** 一部の車両に於いて球切れモニターが点灯する場合があります。
この症状は、車両側のヘッドライト電気制御系統とH.I.Dシステムの相性により発生する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 4** 改造、分解等は絶対に行わないでください。
この商品は、精密な電子回路の集合体です。システムが作動中高電圧が発生しますので、バラスト・H.I.Dバルブ等は絶対に改造・分解は行わないでください。また、改造・分解・不当な修理に起因して生じた故障および損傷に於いては、製品保証の対象外となりますのでご了承ください。

取扱(取付)上のご注意

◇注意事項◇

装着作業を行う際は以下の項目を必ずお守りください。

※以下の項目をお守りいただけずに発生したトラブルに関してはクレームとしてはお受けできませんので予めご了承ください。

◎取付作業開始前に作動確認を行ってください。バルブパッケージを未開封状態でバラストを接続し点灯確認を行ってください。
バルブパッケージ開封前に破損箇所がないか確認してください。

※バルブパッケージ開封後はクレームとしてはお受け出来ません。(但し、製品上のトラブルは除く)

※点灯テストは、P3のH.I.Dバルブ点灯テスト要領をご参照ください。

◎バルブに取付作業を行う前に取付部の奥行きを測定を行ってください。

※奥行きは測定方法は、ノギスなどでバルブ取付面を基準面とし、そこからシェードやレンズまでの距離を測定してください。

- | | | | |
|-----------|---------------|----------|-------------|
| ●H1・H7タイプ | 測定距離が53mm以上 | ●H3-Cタイプ | 測定距離が46mm以上 |
| ●HB3/4タイプ | 測定距離が58mm以上 | ●H4タイプ | 測定距離が58mm以上 |
| ●H9/11タイプ | 測定距離が52.5mm以上 | | |

であれば問題ありませんが、上記寸法以下の場合は、装着作業を中止してください。

◎H.I.Dバルブの装着はヘッドライトを外して行ってください。

※H.I.Dバルブはとてもデリケートです。装着作業を行う際は必ずヘッドライトを車両から取外し、慎重に作業を行ってください。

◎車両のヘッドライトヒューズ容量を確認してください。

※システム起動時に電気容量が必要となりますので、車両のヘッドライトヒューズが15A以下の場合は15Aヒューズ(最大20A)と交換を行ってください。

◎バラストの取扱いは慎重に行ってください。

※精密な電子回路の集合体です。落としたり、配線を引っ張ったりしないでください。システムが作動していると高電圧が発生しておりますので装着・点検作業を行う際は必ずバッテリー端子を取外した状態で行ってください。また、バラストは水のかかりにくいエンジンルーム内へ確実に固定してください。

本製品は、始動時に約20,000Vの高電圧を起動させるため、ノイズが発生する場合があります。車両への取付け位置によ

ては、ノイズの影響によりラジオ等にノイズが入る場合があります。

◎減光システム装着車へのお取付はできません。また、純正のオートライト機能が正常に作動しない場合があります。

※一般的な減光システムは、出力電圧を自動で調整(上下)することでライトの光量調整(減光)をおこなう装置です。

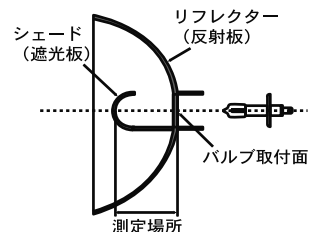
減光システムの作動に伴う最低起動電圧(10ボルト)を下回り、電圧不足により不点灯やシステムの破損の原因となります。

オートライトコントローラーは、車外の明るさに応じて自動的に車両スモールランプ及びヘッドランプを点灯または消灯させる装置です。

HIDシステムとの併用した場合、オートライトコントローラーの作動に伴う点灯/消灯の繰り返しにより、不点灯やシステムの破損の原因となります。

◎耐久年数の過ぎているバッテリーでご使用されると、バッテリーの電圧低下によりHIDの不点灯やシステムの不具合が起こる可能性があるため、バッテリーの交換をお勧めいたします。また、電装品を多く取付け、ご使用されていると、バッテリーに負担がかかりHIDシステムが正常に作動しない場合があります。

◎本製品と電流・電圧センサー機能が搭載されている盗難警報装置を同時装着を行うと誤作動を起こす場合があります。



●おかしいな？と思ったら！！

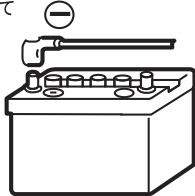
？ ご使用中に不点灯が発生した場合、下記手順の簡易点検を行ってください。

- 1) 速やかに車両を安全な場所へ移動してください。
- 2) ヘッドライトスイッチを消灯状態にし、数秒後再点灯を行ってください。
- 3) 上記作業を行っても症状が改善されない場合は、10～20分程度全ての照明スイッチ(ハザードは除く)を消灯させた後、再点灯を行ってください。

※上記点検を行って正常に戻ればバラストの安全回路が作動して発生する症状なので、そのままご使用されても問題はありません。
もし、症状が改善されない場合やその他のトラブルが発生した場合は、最寄りの駐車設備のある場所へ車両を移動し速やかに、購入・取付けを行った販売店へご相談ください。

●必ず、バッテリーのマイナスケーブルを外す。

※ラジオのプリセットチューニングなど電装品のメモリーを控えておく。《車種によりバッテリーケーブルを外すと車両側の制御機能が誤作動する場合があります。詳しくは車両の取扱マニュアルをご参照ください。》



●ランプ、ホーン、ワイパー、オーディオなどの車両電装品が正常に作動するか確認する。

※取付け後の修復チェックを確実に行う。

●ボルト、ナット、の締め付けには、寸法の合った工具を利用して確実に行う。

※締め付けトルクの指示がある部位は規定トルクで締め付ける。

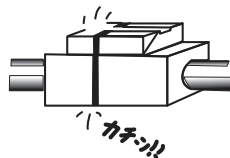
●車両のコネクターを外す際はリード線を引っ張らず、コネクター本体を持ってロックを外すこと。

※ハーネス断線を防止する。



●コネクターやターミナル端子は、確実に接続の事。

※接続不良を防止する。



●ハーネス(配線)配索の際は車両のワイヤリングハーネスに沿ってまとめたり、クランプを使用して固定しぐらぶらさせない。

※イグナイタ、バルブ間の配線を絶対に結束しないでください。



●部品の取付けや、外したフィニッシャー類を取り付ける際は、裏側のハーネスを引っかけたりかみ込んだりしないこと。

※ハーネス断線を防止する。

●車両のワイヤリングハーネスを強く引っ張らないこと。

※コネクター外れや断線を防ぐ。



●ハーネス配索後、修復前に取り付けた部品の作動チェックを行うこと。

※誤配線の防止。

ご注意

点灯テスト時、取付けにバラスト及び、バーナー先端をそれぞれプラス電位、アース部に接触、近づけたことによるバラストの地絡(ショート)故障にご注意ください。
上記、要因による故障は、保証対象となりませんのでご注意ください。

H.I.Dバルブ点灯テスト要領

※開封前に必ず実施してください。

このシステムは、出荷前に振動/点灯試験を行っておりますが、装着作業を行う前に必ず取扱要領書のP7～8の配線図を参照の上、点灯テストを行った後、バルブを開封し作業を行ってください。

《点灯テスト手順》

- ① P7～8の配線図に従ってバルブを開封前にバルブ、ハーネス、コントロールユニット、バラストの配線をそれぞれ接続し、車両に仮付けしてください。この時には、バルブを開封せずにテストを行ってください。※点灯テストの際、コントロールハーネスCは接続しないでください。

※H1、H3、H7は、P7を参照。HB3/4、H11は、P8を参照。

- ② 仮接続が終わりましたら、ヘッドライトのスイッチをONに回し、点灯に問題が無いか確認を行ってください。

- ③ 点灯、作動に問題がなければ点灯テストは終了となります。

《ご注意》

- ◎ バッテリーへ接続する際、プラス(+)マイナス(-)を絶対に間違えないでください。
- ◎ 点灯テストは、1分以内で行ってください。
- ◎ 装着前のテストを怠りケースの封印を開封した場合、及び作業中に発生した破損等はクレームの対象外となりますのでご了承ください。
- ◎ 破損や作動不良の原因となりますので、バラストケースにバッテリーの**プラス電位**が触れないようにご注意ください。
- ◎ 点灯テストの際、バーナー先端をアース部(車両シャーシ、バッテリーマイナス)に近付けた状態で点灯を行いますとバラストの故障の原因となります。

取付概要

-

《取付手順》

1. ランプユニット脱着

バッテリーからマイナス端子を取外してから、取付け作業を始めてください。
車両からヘッドライトA S S Yを取外してください。ランプユニットを脱着し作業を行わないと、商品破損の原因となります。
※車種により脱着方法が異なりますので、脱着要領は車両ごとの整備解説書をご参照ください。



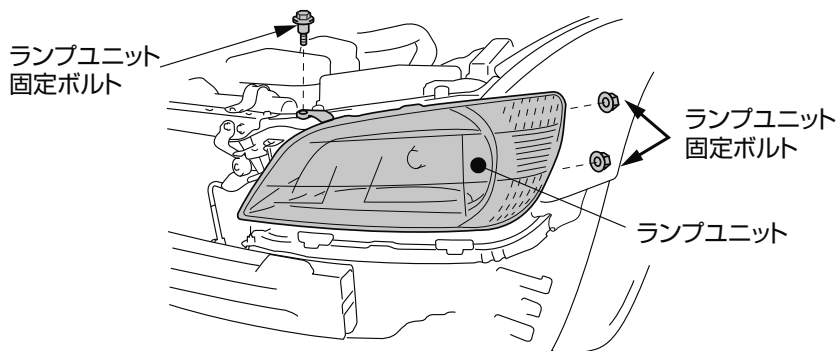
推奨

HIDバルブを取付けの際は、ランプユニットを脱着し作業を行なうようにしてください。



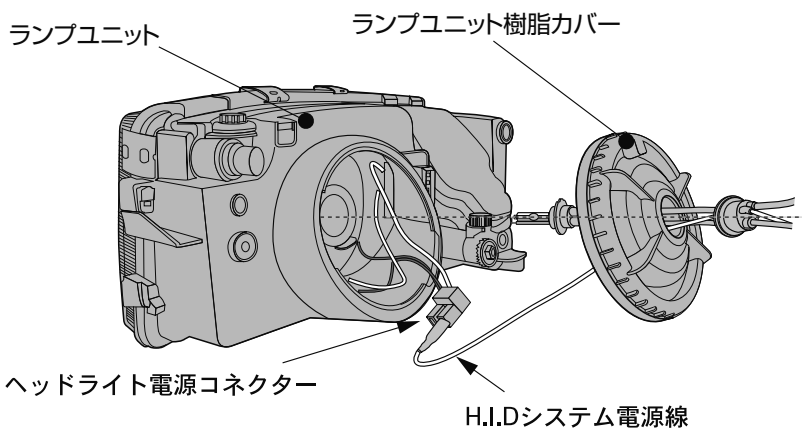
推奨

フォグライトへ取付けの場合、メーカー車両整備書を参照のうえ、作業を行なう事。



2. H.I.Dバルブ取付け

純正ハロゲンバルブをヘッドライトから取外し、そこへH.I.Dバルブを取付けてください。



《電源線の接続》

システムの起動信号線(赤線)と車両のバルブ電源線(+側)の接続は赤線の平端子側をバルブ電源端子またはカプラーに接続後、絶縁テープ等で必ず保護を行い、防水カバーを元の状態に戻してください。
また、HB3/4、H9/11には、専用の電源コネクタになっていますので、車両側カプラーと直接接続してください。
※注意H1やH3バルブは、ユニット側バルブアースを必ず取り外し絶縁処理を行ってください。



アドバイス

※純正バルブコネクタとシステム起動信号を接続する際は、テスターなどで(+)電源の確認を必ず行ってください。
※配線接続後、必ず絶縁処理を行ってください。

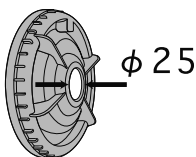
《ランプユニット樹脂カバーの場合》

ランプユニットの樹脂カバーへ(H.I.Dバルブの真後ろ部分)25mmの丸穴をあけてください。
樹脂カバーにあげた穴にH.I.Dバルブから出ている配線を通した後、バルブにセットされている防水ゴムキャップを樹脂カバーへ取付け、樹脂カバーと防水ゴムキャップのせつ接合部にシール材などを使用し防水処理を行ってください。



アドバイス

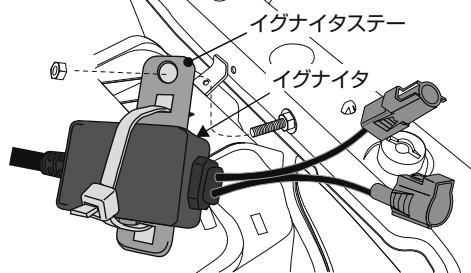
樹脂製の防水カバーのない車種は、この作業は省略されます。



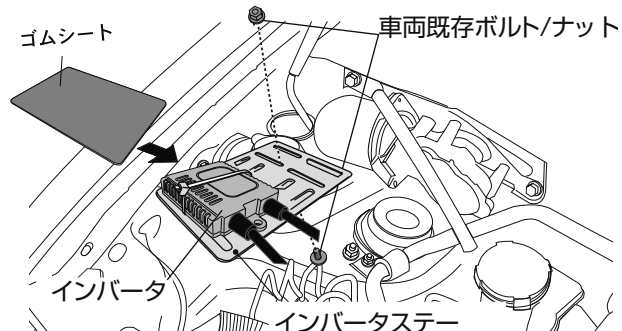
3.イグナイタ、インバータ取付け

- 1) イグナイタを付属のイグナイタステーとインシュロック(大)を使い、図の様にステーに固定し車体へ組付けてください。(図1)
- 2) インバータを付属のインバータステーとインシュロック(大)を使い、図の様にステーに固定し車両へ組付けてください。(図2)
※車両によっては、取付方法が異なりますので固定方法や取付けされる車両ごとに検討ください。
- 3) 1) 2) で取付けたイグナイタ、インバータを高温になり易い場所や水などが掛かり易い場所を選んで車体へ確実に固定してください。

【イグナイタ組付け】(図1)



【インバータ組付け】(図2)



注意

- ※イグナイタ、インバータは電子部品を使用した精密部品の集合体です。
車両への取付けは、ガタツキなどが無い様確実に固定を行ってください。
- ※バラストユニットの作動温度領域は-30℃～+85℃以内です。
極端に温度が上昇する様な場所(ラジエーターやエンジンなど)への取付けは行わないでください。
- ※バルブ-イグナイタ間の配線を他の配線と束ねた奴ラストを車両コンピュータの近くに設置しないでください。
ノイズにより、車両の誤作動が起こる場合があります。

5.リレーハーネスの接続

- ①ハーネスに付属のリレーを接続してください。
- ②リレー本体を水などかかりにくい適切な場所へボルト・ナットなどで確実に車両に固定してください。
固定する際、リレーカブラーのハーネスが下側になる様に固定してください。(リレーを固定する際、接続するハーネスの届く範囲で固定してください)(ボルト・ナットは付属されておられません)
- ③リレーハーネスから出ているバラスト電源線のコネクターをバラストに接続してください。
- ④リレーハーネスのギボシ端子(オス)赤線をバルブ防水ゴムカバーに取付いている配線(赤線)のギボシ端子(メス)に接続し、クワ形端子(黒線)を車両ボディーアース又は、バッテリーマイナス端子に接続してください。 ※車両カブラーの検電を行ってから接続してください。車両によりランプスイッチがOFFの状態でも電圧(12V)が常時供給されている車両があります。その際は、図B(P8参照)クワ形端子(黒線)を車両側ランプのマイナス端子へ端子を加工し接続してください。(HB3/4、H9/11の取付けの際は、必ず、図B(P8参照)クワ形端子(黒線)を加工する必要があります)
- ⑤アイドリングストップ機能が搭載されていない車両は、リレーカブラーから出ている赤線、黒線のギボシメス端子を絶縁テープで、絶縁処理を行なってください。 ⑥、⑦の作業は行ないませんので、⑧の作業へ進んでください。
- ⑥アイドリングストップ機能搭載車に取付ける場合、コントロールハーネスCを使用します、車両バルブコネクターの検電を行ない、リレーカブラーから出ている赤線がプラスか確認を行ない、配線の接続を行ないます。
- ⑦リレーカブラーから出ている赤線ギボシメス端子にコントロールハーネスCの赤線ギボシオス端子を接続します。リレーカブラーから出ている黒線ギボシメス端子も同じく、コントロールハーネスCの黒線ギボシオス端子と接続します。(H1、H3、H7はP7参照。HB3/4、H9/11はP8参照)
※プラス/マイナスを間違え、逆接続し使用すると部品の破損、作動不良の原因となります。必ず、検電を行ない、接続してください。
- ⑧リレーハーネスのクワ形端子(赤線)(ヒューズケースの付いている配線)をバッテリーのプラス端子へ接続してください。
ヒューズケースの配線は、必ず下側になる様にインシュロック等でエンジンルーム内の適切な場所に取付けてください。

《車両の組立て》

- 点灯確認後、問題がなければ取外した部品を元に戻してください。点灯しない場合は、前項のトラブルシューティングを参照の上、各部の点検を行ってください。
- 配光調整を行ってください。
※明るさが増すため、今まで見えなかった光が見え、配光が異なって見える場合があります。

けずり取る

【拡大図】

《バルブ取付け穴加工工具(参考)》

《名称：モールビット》

H.I.Dバルブ

防水
ゴムカバー

車両ヘッドライトの
プラス線への接続

純正ヘッドライト
ロービーム配線①

必ず検電器でプラスを確認し、
接続を行ってください。
接続後は、必ず、ヒニールテープ等で絶縁、防水処理を行ってください。

リレーを付ける場合、配線が下向きになるように
取付を行ってください。
※リレーは完全防水ではありません。
市販の接点グリスやコネクタグリスを使い
グリスアップを行ってください。※アドバイス参照

ヒューズ
15 A

バッテリーの+端子へ

図B
(P 6 参照)

ボディアースもしくは、
バッテリーマイナス端子へ

コントロールハーネスCを使用しない場合、リレーコネクターから出ているギボシ配線を必ず絶縁テープで、ギボシ端子を絶縁処理を行なってください。

必ず検電器でプラスを確認し、接続を行ってください。接続後は、必ず、ヒニールテープ等で絶縁、防水処理を行ってください。

パルプーイグナイタ間のハーネスは、束ねないでください。束ねると電圧降下を起こし故障の原因となります。

イグナイタ

黒線

赤線

接続してください。

コントロールハーネスC ※1

接続

インバータ

防水コネクターの張ったり、コネクタ曲げないでください。上記のような事を行うと機能低下します。

ご注意

- ※アース取得端子部の接触不良の原因により、しっかりとアースを落せる部位に取付けください。
- ※バッテリーマイナス側に電流センサーが装着されている場合は、インスタ端子に接続しないでください。この様な車両の場合、ボディアースへ接続してください。

アドバイス

ヒューズケース、カブラーの防滴対策として、市販の接点グリスやコネクタグリスを使いグリスアップを行ってください。※塗布ポイントは、矢印の場所です。

※注意 シリコン系グリスは、端子腐食の原因になりますので、使用しないでください。

アイドリングストップ機能装着車への装着について

アイドリングストップ機能が付いたお車へHIDキットを装着される場合は、バッテリー電源線をサブバッテリーではなく、確実に電力の取れるメインバッテリーへの装着をお願いします。※マツダ車(i-stop)などはエンジンルームにバッテリーが2ヶ搭載されています。別紙、配線接続方法 参照

《HB3/4/H1Rに装着する場合》

このシステム(HBタイプ)は、HB4(9006・9006J)/HB3(9005・9005J)/H1R(1・2)のハロゲンバルブに対応可能な汎用タイプです。

上記ハロゲンバルブのタイプ毎に装着方法が異なります。下記の手順に従い、それぞれの作業を行ってください。

【ご注意】

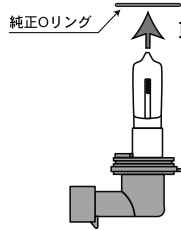
下記手順をふまずに装着した場合、バルブ本体を破損させる可能性がありますので、充分ご注意ください。

《HB4/H1R2に使用する場合》

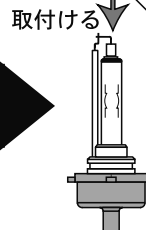
《HB3/9005J/9006J/H1R1に使用する場合》

◇装着されている
Oリングをそのまま
使用する。

H.I.D バルブ(HBタイプ)



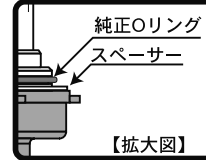
ハロゲン バルブ(HBタイプ)



H.I.D バルブ(HBタイプ)

純正Oリング

スペーサー
※ヘッドライトによりスペーサー
は使用しない場合があります。



【拡大図】

②HB3/4/H9/11に装着する場合

※各バルブ毎に取付方法が異なります。

※1.アイドリングストップ機能が装着されている車両で、アイドリングストップからエンジン始動の際、車両側バルブコネクタへの電圧が低下する事があります。
電圧が低下すると、リレーの動作が不安定になります。
コントロールハーネスCは、電圧低下した際のリレー作動保持の為のパーツです。

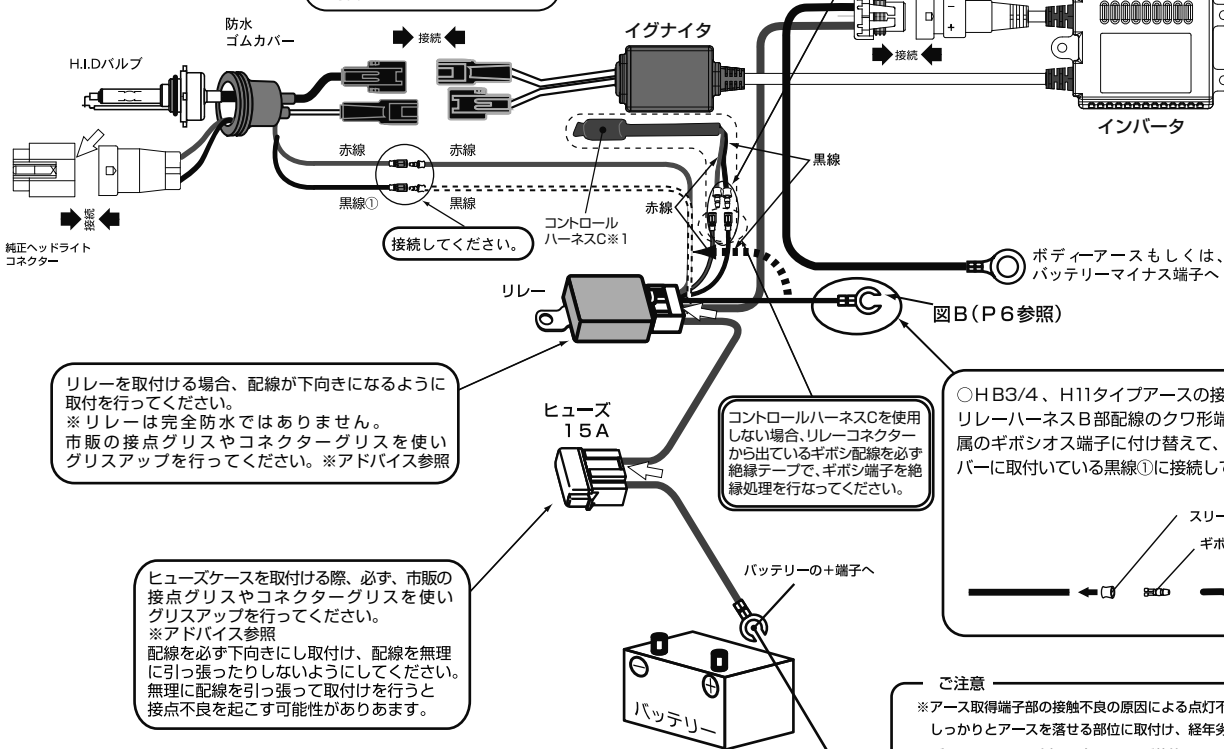
対象となる形状を確認して作業を行ってください。

アイドリングストップ機能装着車へ取付ける場合

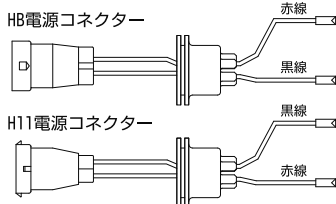
コントロールハーネスCを接続する際、必ず、テスター等で検電を行なってください。
接続でプラス・マイナスを絶対に間違えないでください。
部品の破損、動作不良の原因となります。
必ず、コントロールハーネスCの赤線にプラス/黒線にマイナスを接続してください。
※取付け後、必ず、配線が下向きになる様に、付属のインシュロックを使い、リレーと固定してください。

防水コネクタの配線を無理に引っ張ったり、コネクタ根元から折り曲げないでください。
上記のような事を行うと、防水コネクタの機能低下になります。

バルブ・イグナイタ間のハーネスは、束ねないでください。
ノイズの発生や電圧降下を起こし故障の原因となります。



○HB、H9/11タイプ車両電源接続コネクタ形状



アドバイス

ヒューズケース、カブラーの防滴対応として市販の接点グリスやコネクタグリスを使いグリスアップを行ってください。
※塗布ポイントは、矢印の場所です。→

※注意 シリコン系グリスは、端子の接点不良の原因になりますので、使用しないでください。

ご注意

※アース取得端子部の接触不良による点灯不良にご注意ください。
しっかりとアースを落せる部位に取付け、経年劣化による錆対策を行ってください。
※バッテリーマイナス側に電流センサーが装着されている車両へ取付ける場合、バッテリーマイナス端子に接続しないでください。車両側充電制御が最速に実行しない事があります。
この様な車両の場合、ボディアースへ接続してください。別紙、配線接続方法 参照

アイドリングストップ機能装着車への装着について
アイドリングストップ機能が付いたお車へHIDキットを装着される場合は、バッテリー電源線をサブバッテリーではなく、確実に電力の取れるメインバッテリーへの装着をお願いします。
※マツダ車(i-stop)などはエンジンルームにバッテリーが2ヶ搭載されています。別紙、配線接続方法 参照